

## 東部支部だより

### 東部支部長就任挨拶

この度、東部支部長（学会副会長）に就任いたしました東京大学大学院新領域創成科学研究科の高木健です。私は1985年から大阪大学で、船舶耐航性や浮体構造物の運動性能の教育研究に従事して参りました。2008年に東大に異動してからは、海洋再生可能エネルギーの教育研究にも手を広げています。当学会では関西支部の前進である関西造船協会での活動を皮切りに、様々な活動に携わって参りましたが、東部支部では支部への貢献が少なく申し訳なく思っておりましたところ、支部長の大役を仰せつかり大変恐縮しております。

さて、わが国の船舶海洋分野を取り巻く状況を見渡しますと、GHGゼロエミッション船や洋上風力発電などカーボンニュートラル達成に貢献する技術開発や、自律運航船やデジタルツインあるいは海洋のビッグデータなどSociety 5.0の構築に向けた技術開発が望まれています。また、造船業界の生産性向上・競争力向上にはデジタルトランスフォーメーションやシステムインテグレーションを実行しなければなりません。当学会はこれらの新技術において中核となる船舶海洋工学の知見を有していますが、周辺技術を上手く取り入れて行かなければ、これらの技術開発に貢献することはできません。

幸い、首都圏には様々な研究機関や企業の研究所あるいは大学などが集積しており、東部支部の会員諸兄は既にこれらの新技術に関連した研究者と様々なネットワークを築かれておられます。このようなネットワークを使って、当学会に新たな人々を呼び込んでくること出来るのではないかと考えています。そのためには、中核となる船舶海洋工学が魅力的であり続ける必要があります。学会全体としては、三島前会長により、(一社)日本造船工業会と本会との意見交換の場が設けられておりますが、藤久保新会長もこの意見交換会をさらに実の有るものにしていくお考えのようです。東部支部としては、海運業界や官界も巻き込んで新しい技術開発を議論するプラットフォームの機能を充実させ、船舶海洋工学に関わる知をさらに集積できればと考えています。

一方、すでに1年以上続くコロナ禍では皆様大変な思いをされていると思います。ワクチン接種により、ようやく終息のめどが立ったとはいえ、海外出張なども完全に元通りになるのがいつなのか予想もつきません。この間、当学会のイベントも殆どオンライン化され、講演会の懇親会で旧交を温めることもできなくなっています。しかし、オンライン化により各支部の距離がとて縮まるというメリットも有りました。今後も、このメリットを生かして、各支部の垣根を低くし東部支部の特色あるイベントに他支部の会員がオンライン参加できるような方式を続けて行きたいと考えています。また、海外からの参加も容易になることが期待できます。

東部支部では主な事業として年2回のワークショップ

プ、若手研究者、技術者を対象とした研修・意見交換会を開催しています。これらの行事では、前述の新技術に関わる異業種、異分野の方々に多く参画していただくことが大切だと思っています。そのような仕掛けを東部支部の皆様と考えて行きたいと思えます。また海事産業関連の団体の情報提供及び学生との交流の場として「海事産業へのお誘い」を開催しておりますが、このイベントは他支部とも連携していきたいと考えています。海事産業は地域ごとの特色がありますので、それらの特色が若い人たちのキャリア形成にとって魅力あるものとして伝わればと思います。

先に述べましたように、船舶海洋工学分野には異分野の人々と協力して解決しなければならない研究開発課題があります。これらは、これからの世の中を担う若い世代の人たちにとって、越えなければならない壁であるとともに挑戦しがいのある魅力的な研究開発課題であると思えます。しかし、一方で日常業務を取り巻く環境は大変厳しく、学会活動になかなか時間を割けないのが現実です。学会としては、このような環境での貴重な時間を無駄にしないように、さらなる管理運営の工夫やオンライン等のITを活用して、将来の課題をゆっくり考える場を提供しなければならないと感じています。これは、東部支部だけではなく、学会全体の問題でもありますが、東部支部会員諸兄のアイデアをぜひ聞かせて頂きたいと思っています。

2年間の任期にどれだけのことを達成できるか分かりませんが、微力ながら会員の皆様のお役に立てるように尽力したいと考えておりますので、どうぞご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

公益社団法人日本船舶海洋工学会  
副会長 東部支部長 高木 健

